

## 2024 年版地域通貨稼働調査の結果について（速報版）

2025 年 9 月 5 日

泉留維（専修大学）・中里裕美（明治大学）

### 1. 調査概要

日本の地域通貨の稼働状況を把握するために、泉留維（専修大学経済学部教授）と中里裕美（明治大学情報コミュニケーション学部教授）が定期的の実施しています。具体的な調査手法等については、泉・中里（2023）「コロナ禍における日本の地域通貨について：2021 年稼働調査から見てきたもの」『専修経済学論集』（57 巻 3 号）をご覧ください。

※2008 年 12 月調査から 2016 年 12 月調査までの期間は調査を休止しており、その間のデータが抜けているため、破線で示しています。

※デジタルで価値の移動を行うものは、転々流通性の有無などの点から、デジタル地域通貨、デジタル地域決済（商品券）、デジタル地域ポイントの 3 つに区分しています。区分の詳細等については、泉（2024）「地域通貨、地域決済、地域ポイントのデジタル化の現状についての一考察」『専修経済学論集』（59 巻 1 号）をご覧ください。

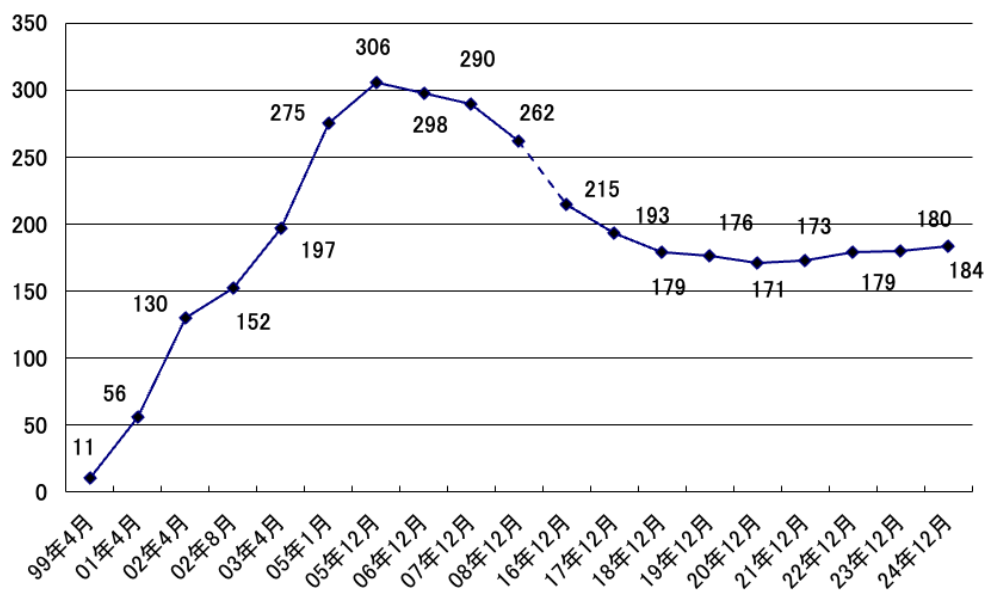
※例年の調査に加え、2024 年末に実施した質問紙調査（稼働中の全地域通貨対象：回答数 112、回収率 64.3%）の結果等を反映させ、遡って修正を加えています。質問紙調査の詳細については、中里・泉（2025）「2024 年全国調査から見てきた日本の地域通貨像」『専修経済学論集』（60 巻 1 号）をご覧ください。

### 2. 調査結果

#### ①稼働状況の推移

1999 年初頭には数えるほどしかなかった地域通貨でしたが、2005 年頃にかけて一気にその数を増やしました。その後は減少傾向にありましたが、2018 年からはほぼ横ばいになっています。また、最盛期には遠く及ばないですが、近年でも毎年 10 以上の新しい地域通貨が立ち上がっています。今回の調査では、2024 年 12 月時点で 184 の稼働中の地域通貨を確認しました。

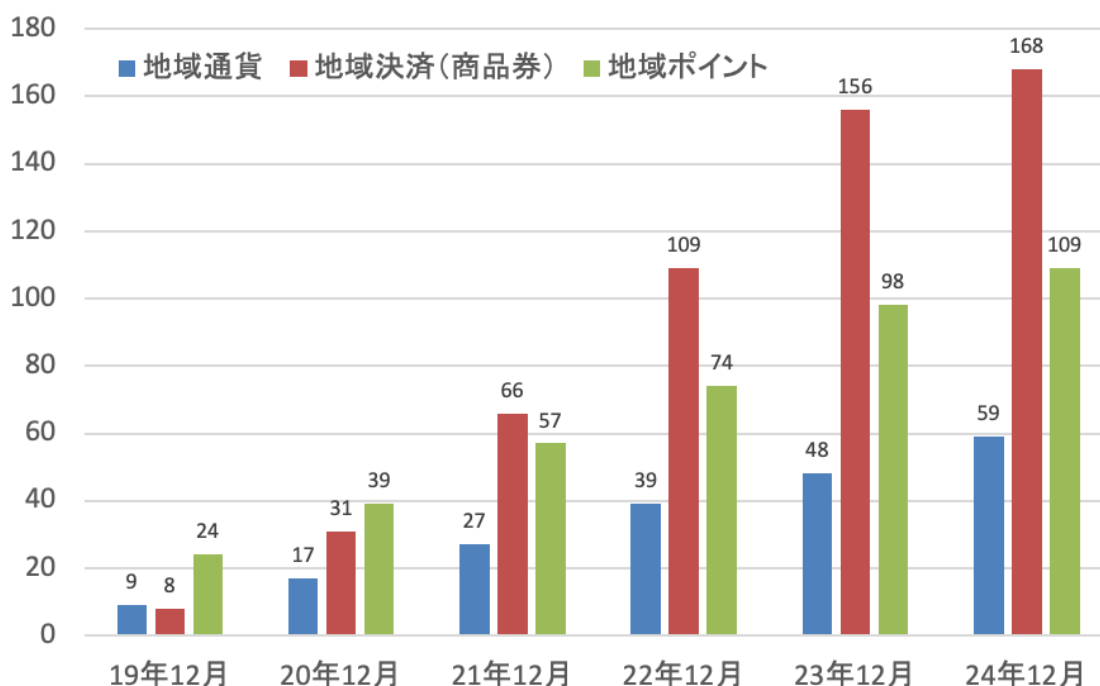
図 1：日本の地域通貨の稼働状況の推移



## ②近年の地域通貨の特徴

2017 年頃までは、間伐材を原資として地域通貨を発行する「木の駅」方式の新規導入が目立ちましたが、コロナ禍が始まった 2020 年からは、主としてスマートフォンを用いるデジタル方式の新規導入が一気に増えました。そして、2024 年に新規導入された全地域通貨がデジタル方式（計 18、デジタル地域決済からの転換含む）になっています。デジタルで価値の移動を行うものについては、デジタル地域通貨、デジタル地域決済（商品券）、デジタル地域ポイントの 3 つに区分していますが、その推移は図 2 の通りです。どの仕組みも数を増やしていますが、新規数の伸びは鈍化しつつあります。

図 2：デジタル方式を取り入れている各仕組みの稼働数の推移（重複あり）



（出典）泉（2024）より数値更新

※図 2 において、地域決済（商品券）と地域ポイントの一部については、両方の仕組みを組み込んだものもあり、それらについては両方にカウントしています（約 15%強）。2024 年 12 月のデジタル方式の各仕組みの総数（重複あり）は 336 でした。

## 3. 問い合わせ先

内容等について質問がありましたら、下記までお問い合わせください。なお、現時点では、2024 年 12 月調査の詳細の公開予定はありません。

泉 留維（IZUMI, Rui）

専修大学経済学部教授

〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学 3 号館 4 階 3405

Phone 044-911-1044 （研究室直通）

FAX 044-911-0467 （代）

E-mail izumir at isc.senshu-u.ac.jp （at は @ に置き換えて下さい）